連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2014.5 vol.97

副院長就任の挨拶

昨年度まで花田院長皆越副院長と同級生コンビは当院の両輪のようでしたが、皆越先生が退官され、そのあとを私が引き継ぐことになりました。とても皆越先生のような勤勉さや大局観は持ち合わせておりませんが皆様の協力を得て私なりの責務を果たしたいと思っております。幸い皆越先生は当院で引き続きお手伝いしていただけるので御相談にも乗っていただけると安心しております。様々な課題があるかと思いますが、幾つか私見を述べさせていただきます。

「少子高齢化社会の医療の青写真」への対応

今年度からは消費税のアップ、診療報酬改定などもあり、経営収支には先行きの見えないような様相を呈しています。国の赤字1千兆円（国民一人当り約８００万円の借金）という経済状態で、少子高齢化医療を展開しなければなりません。そうした状況に合わせて、身の丈にあった診療報酬体系の青写真を作ってこられたのだろうと思いますが７：１看護体制や急性期病院の設定は早速改訂されました。この青写真は統制経済ならぬ、誘導型医療経済（人、物、金）の再配分の仕方を示すものと言えます。

その青写真（「地域連携医療」「病床機能分化」など）のもとに各医療機関は様々なとり組みをして行くことになります。現場の私たちはひたすら患者さんの治癒を願い、真摯に診療することだけですが、それらを保証してくれるのはやはり経済的な支えです。仙人のように雲を食って生きてはいけない、かと言って拡大再生産という企業論理で、金儲け主義に徹しきって医療の原点を忘れ去ってはならないと思います。そこらの調整をつけていくのも病院幹部としての有り様だろうと思っています。実に大変な時代になったものだと思います。

高齢化社会の医療としては、歴史上未曾有のチャレンジ、経験ということになります。日本の医療が、引き続いて世界諸国に起こりうる高齢化社会の医療のモデルになるのかもしれません。これから２０－３０年は続く医療形態です。政府行政の青写真の真価が問われていくことになります。

「治療看護の意識変革」

高齢化社会に向けた医療枠組みに沿って、同時に医療現場での意識変革も必要になっていると思われます。

通常、我々はある程度、患者さんの自然治癒力に依拠して診療をしています。しかし脆弱で、適応力、治癒力が低下している高齢者の場合、かなり真剣な、緻密な、そして歩留まりの良い医療を提供し、残りの人生のＱＯＬを確保してあげることが大事になります。入院治療し救命はできた、あるいは主病は治療できたが合併症、余病を併発したりして、社会生活がうまく送れないなどということにならないようにしなければなりません。看護にしてもより細やかな配慮、行き届いたケアを求められます。他業種では日本人のサービス精神・マナーは世界でも高く評価されています。医療業界でもそうしたサービス意識は発揮できるものと思います。

「心・脳総力戦態勢」

「ヒトは血管から老化する」と言われていますが、当院でも大動脈疾患や心臓疾患で入院したものの脳血管障害をきたした、あるいは脳卒中で入院したが治療中に心疾患等を併発したという方も多くなってきまして、危機感を抱いていました。こうした状況を背景に、より精緻な、包括的な「心・脳総力戦」を展開する試みを計画推進しています。

医療経済のスキームだけが高齢化社会への対応となるのではなく、その内容でも治療概念を変えていくことが新たな時代の要請だろうと考えています。心血管病脳卒中の連携が構築できるのは当院の得難い特質であると思っています。

「臨床倫理」の活用

また様々な人生経験を経てこられた高齢者に敬意を持って接することは勿論、彼らはそれぞれ残りの人生への死生観をお持ちです。いろいろな哲学や倫理観に接する機会も多くなります。若輩の我々はどう接するのか？個人的にも、組織としても、寛い哲学と高い倫理性を涵養することがより豊かな高齢化社会の医療に資することになるでしょう。

これらの課題に答えられるよう、また地域の医療に貢献できるような鹿児島医療センターにするべく微力ながら力を尽くしたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

（文 責：副院長　今村　純一）

公開講座を終えて

去る4月6日かごしま県民交流センターにおいて、第4回心臓・血管病市民公開講座を開催しました。参加人数は400人で従来通りでしたが、南日本新聞にも記事が掲載され、盛会のうちに終了できたと思います。今回のテーマは「心臓突然死：あなたの家族を守る」とさせていただきました。普段元気だと思っていた家族が、急に亡くなることは想像もつきませんし、実際起こってみるとショックの大きさはいかばかりかと思います。突然死は赤ん坊からお年寄りまであらゆる世代にふりかかる恐れがあります。今回は花田修一院長先生の開会挨拶に続き救急科部長の堂籠博先生から、救急部からみた突然死について発表していただきました。日本では年間推定5万人が突然死で亡くなっておられ、そのうちの70％が家庭内で発生するとのことでした。循環器内科医長の塗木徳人先生には突然死の半数以上を占める循環器疾患、そのなかでも特に突然死と直結する心室細動についてお話ししていただきました。心室細動発生時の自動対外式除細動器（AED）が徐々に普及しており、予防としては植え込み型除細動器、最新の着用型除細動器についても説明していただきました。小児科部長の吉永正夫先生には子供の突然死とその予防対策についてご講演いただきました。救急認定看護師の伊藤由加さんには、「あなたにできる救急対応」という内容で、身内の急変などいざという時に慌てず、いかに落ち着いて対応するかについての心構えの話をしていただきました。いずれも大変勉強になる役に立つ実践的な内容であったと思います。

特別講演はタニタヘルスリンク管理栄養士の飯島奈実さんを迎え、映画でも評判になったタニタの社員食堂健康セミナーについてご講演していただきました。非常に楽しく、健康にはいかに食事が重要であるかよく理解できたと思います。機会があれば東京のタニタ食堂で実際の食事を体験してみられても良いと思います。

事務部門の協力のもと看護部、診療部、栄養管理室、放射線部、検査部、薬剤部など病院の総力あげて開催している健康フェスタも第4回目を迎え、各部門とも前回までの反省を活かした充実した内容で、ほとんどの皆さんに満足していただけるものであったと思っております。毎回、看護学生さんもボランティアで参加していただいており、フレッシュな顔ぶれで「おもてなし」をしております。内容については今回もアンケート調査を行いましたので、次回に活かしていきたいと思っております。

会の最後には、心臓・血管病市民公開講座の生みの親である皆越眞一先生に挨拶していただきました。スライドを用いた非常に面白いお話でいつまでも聞いていたい内容でした。今回で皆越先生はご退官されますが、先生の当初の志は病院職員一同で引き継いでいこうと思っております。

来年以降もより一層皆様の興味のある面白い内容にして参りますので、ご支援の程何卒よろしくお願い致します。

（文 責：循環器内科部長　中島　均）

卒業を迎えて

去る平成26年3月5日、私たち20回生は鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校を卒業しました。看護学校では看護についてだけでなく、職業人としての行動など、多くのことを学び、様々なことを考えた3年間でした。しかしその中で、学校の教員や友達を始め、実習で受け持たせていただいた患者さん、実習施設の実習指導者の方々、病棟のスタッフ、講師の先生など、たくさんの方々と出会い、励まされ、支えられているのだと感じました。特に実習では、終末期にある患者さんとそのご家族と向き合い、全人的なケアを行う中で、患者さん・ご家族を支えている看護師の姿がとても印象に残り、自分もこのような看護が提供できる看護師になりたいと強く思いました。私たちは、4月から病院での勤務、進学とそれぞれの道を進んでいます。学校生活や講義・実習で学んだことを生かしながら、看護師長や先輩看護師、患者さん方から様々なことを学び、吸収していくと同時に、社会人・組織の一員として、責任ある行動をとっていきたいと思います。

（文 責：平成25年度卒業生　西　明日香）

鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校に入学して

桜の花びらが舞う4月、私たち1年生75名は鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校に入学しました。私は、夢への第一歩となる看護学を学べること、新しい環境での生活に対する期待の反面、人間関係や親元を離れての生活に対する不安でいっぱいでした。しかし約1か月が経ち、多くの講師の方々、学校職員の激励の言葉に励まされ、また同じ夢を持つ仲間の存在ができたことで学校生活にも徐々に慣れ、充実した日々を送っています。

私たちは、本校の基本理念でもある「人間愛と探求心を育み、ヒューマンケアの実践者を育成します。」という考えに基づき、これから看護に必要な知識・技術・態度を学んでいきます。そこで私たち1年生は、「講義・実習等において、積極的に質問・発言・行動して不明な点をなくし、看護学生としての生活に慣れる。」という前期クラス目標を掲げました。仲間とともにその目標を達成するために自ら行動する意欲を持ち、日々学習に励んでいきたいと思います。

年齢も出身地も人生経験も多様なクラスですが、看護職になりたいという共通の夢を叶えるためにこれから互いに協力しあい、励ましあっていきたいと思います。

（文 責：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校23回生　林　みな子）

新任紹介

第一循環器内科

樋口 公嗣

平成26年4月より天陽会中央病院より第一循環器科に異動となりました。13年前に当院でレジデントとして勤務していました。しかし、建物も変わり、電子カルテも導入されており、分からないことばかりになっています。皆様にご迷惑をお掛けすると思いますが、よろしくお願いいたします。

第二循環器内科

石川 裕輔

平成26年4月より霧島市立医師会医療センターより異動となりました。

以前もレジデントとして働かせていただいておりましたが、再度この第一線病院で働けることをうれしく思っております。いろいろご迷惑をおかけするかと思いますが、一生懸命仕事しますのでよろしくお願いします。

第二循環器内科 レジデント

友松 範博

平成26年4月より第二循環器内科で勤務している、3年目の友松です。

以前研修医の時に半年間、鹿児島医療センターでお世話になりました。

皆様にいろいろとご迷惑をお掛けすると思いますが、よろしくお願いいたします。

第二循環器内科 レジデント

松本 洋之

平成26年4月に川内済生会病院から鹿児島医療センター第2循環器科へ移動となりました。このような大規模な病院での勤務は初めてでなれないことも多いですが、多くを学ばせていただきながら、患者さんのためになる医療を実践していきたいと思っています。よろしくお願いします。

脳血管内科

大山 徹也

平成26年4月より国立病院機構沖縄病院神経内科から当院脳血管内科に異動となりました大山と申します。これまでは変性疾患をはじめとした神経難病を主に研修してきており、脳卒中の診療に携わることは初めての経験のため、皆さんにご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思います。せっかくの機会をいただきましたので、多くのことを学んでいきたいと思っています。まだまだ経験不足ではございますが、今後共何卒宜しくお願い申し上げます。

脳血管内科 レジデント

濵田 祐樹

平成26年4月1日付けで鹿児島大学病院神経内科・老年病学講座から異動して参りました濵田と申します。研修医、入局一年目と二度当院で仕事をさせて頂いたことがあり、先輩医師に仕事のノウハウを教えてもらいながら、一生懸命診療に携わろうとしていた頃のことを思い出します。その頃とは少し景色も気持ちも違った形で脳血管内科医として診療に携われるのを光栄に感じます。少しでも患者様のお役に立てるように努めて参りますので、宜しくお願いいたします。

脳血管内科 レジデント

山下 ひとみ

4月から脳血管内科レジデントとして勤務しています。当院での初期研修後、鹿大神経内科病棟で1年勉強してまた戻ってきました。今後疾患としては脳卒中が中心となりますが、患者さん全体を診られるお医者さんになれるよう、日々努力する所存です。よろしくお願い致します。

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

㈹TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 http://www.kagomc.jp

【地域医療連携室】薗田・四丸・井手・濱口・森・鷲頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。